水戸の城あとマップ

茨城大学教育学部附属小3年 酒井紗綾

1. きっかけ

わたしの通うふぞく小学校の校歌は「水戸の城あと風清く♪」という歌しからはじまります。ふぞく小はむかし水戸城があったところにあります。わたしは前に水戸市立はく物館で水戸城をさいげんしたミニチュアのジオラマを見ました。お城のしき地にごてんややぐらがありました。そのお城を見ながら、わたしが今いる3年3組の教室はこのあたりかな？プールはこのへんなのかなとそうぞうすると、とてもわくわくした気持ちになりました。社会科のじゅぎょうで学校のまわりを調べたこともあり、水戸城のあと地をくわしく調べてみようと思いました。

2. 調べ方

〈じゅぎょうで調べたこと〉

ふぞく小のまわりは

東・学校が多く学生が多い
西・駅の近くで公きょうしせつや会社が多い
南・駅の近くで商店がならび、にぎやか
北・那珂川が流れ住宅がならぶ

〈歩いて探けん〉

水戸城のあと地にはかん光あん内のかん板がたくさんあるので、それらを見ながら実さいに歩いてみました。むかしがわかるいろいろなものを探しながら歩きました。そのあと図書館やはく物館などで、古い地図や写真、し料を見て、今の時代と見くらべました。

3. わかったこと

〈調べたこと〉

水戸城は地形をいかした高台にある。むかし千波湖は今の2倍の広さで、今の水戸駅あたりは湖だった。本丸、二の丸 三の丸があるが水戸城の場合、ごてんは二の丸にあり、本丸は倉こなどがおかれていた。水戸城は1200年ころかられきしがあり、時代とともにいろいろなとの様が住んでいたが、江戸時代に徳川氏がご三家の1つとして水戸藩をせっちしたため日本の中でもとくに重ような城になった。水戸藩のとの様は2代目の光圀と9代目の斉昭がゆう名で、2人に関係する碑や像が多くある。

〈気がついたこと〉

むかしのたて物があまりのこっていない。水戸藩の内乱(1868年)、水戸城やき打ち事けん(1873年)水戸空しゅう(1945年)東日本大しんさい(2011年)などで、なくなったりはそんした。城のまわりをとりかこむように木がはえている。古い巨木が多い。
二の丸・本丸あとは学校がたつ。三の丸は弘道館、学校、公きょうしせつがたつ。二の丸、本丸あと地の今の町名は三の丸である。

4. まとめ

毎日、通りすがりに見ていたあん内板や、よくわからなかった碑、むかしの人の像を調べることによっておなじみの場所のれきし(とくに水戸藩のれきし)を知ることができました。水戸城では多くのおさむらいさんが、学問をしたり、おとの様とせいじをおこなっていました。徳川の時代が終った時に、お城の多くがこわされてしまいざんねんです。せっかくのこっていた三階櫓も水戸空しゅうでやけてしまいました。その時、弘道館は住民たちがひっしに火を消して守ったと水戸市平和記念館で知りました。ところが今度は大地しんでこわれてしまい、2年かけてしゅうふくされました。古いたて物を保ぞんすることは大へんなことだなぁと思いました。水戸城のあと地はいつ歩いてもゴミがなくてきれいです。それはみんながこの場所とれきしを大切にして、ほこりに思っているからだと感じました。